（様式１・小学校用①）

令和４年度　学　校　評　価　報　告

草加市立川柳小学校
（令和５年２月２３日作成）

１　学校教育目標

・かしこく　（進んで学ぶ子）
・なかよく　（明るく思いやりのある子）
・たくましく（健康でたくましい子）

２　重点目標・努力目標

○目指す学校像：「子どもたち一人ひとりを大切にし、笑顔と活気あふれる川柳小」
・全ての子どもに力をつける学校
（学力、体力、心力　常態のレベルアップ）
・よさを認め、伸ばす学校
（自己肯定感・自己有用感の向上）
・夢を育む学校（社会的自立力の育成）

○学校経営重点目標
・主体的な学びを育む授業づくりの推進
・学力（読む、書く、聴く）、体力の向上
・学習規律の徹底・家庭学習の習慣化
・いじめ、不登校対策の徹底
・心の教育の推進・充実
・幼保小中を一貫した教育の推進

３　前年度の成果と課題

○成果
・チーム川小として、全教職員が協力して、感染拡大防止対策を踏まえた上での学校行事の見直しなど、児童の教育活動に当たる体制が確立できた。教職員の在校時間も削減できている。
・青柳中学校区研究発表への取組を通して、本校では「ＵＤの視点を生かした授業の創造」を研修主題に、国語・道徳・体育・特別支援教育において、授業展開の工夫、学習指導の改善に努め「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れた授業実践を進めた。

○課題
・授業改善を図り、児童の学力向上、教員の授業力向上につなげるために、教科を国語科にしぼり校内課題研修を行っていく。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。 ○学校行事や業務の精選など、校務改善を図った。教職員の在校時間も削減できている。 ●負担軽減と教育の充実が両輪の輪となるよう、更なる改善に努めていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○校内課題研修として「学ぶ喜びを味わわせる国語科授業の創造　～読解力を高める説明的な指導法～」を研修主題として実践を重ねてきた。相手意識・目的意識をもった授業改善、系統的な指導法を取り入れた授業展開の工夫を進めてきた。 ●国語科の研修を継続し、更なる授業改善と学力向上につなげるための校内研修を進めていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○手指消毒の徹底、飛沫防止ボードの設置、健康観察の感染拡大防止対策を確実に実施できた。 ○非行防止教室やＣＡＰ、救命救急研修等の安全に対する指導や研修を充実できた。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止策が次のフェーズに移っても、適切な対応をしていけるようにする。

	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会を定期的に実施したことで、教職員の事故防止に対する意識向上が図られた。 ●校庭の水はけが悪くなっていたり、校庭のトラックの紐が切れていたりするので、修繕が必要である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校運営協議会を学期に２回、計６回開催し、学校経営への説明をしたり、学校運営への助言を頂いたりした。 ○学校だより、週予定表の配付、定期的なホームページの更新、情報連絡システム「コドモン」「すぐーる」を活用した家庭との連携、ありがとうの会（感謝の会）等を通して、家庭・地域に学校の様子を知らせることができた。 ●コロナ禍の中、少しずつ学校へ保護者や地域の方を招くことできるようになってきた。徐々にコロナ前に戻せるようにしていきたい。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小中連携乗り入れ授業や１日体験入学を通して、６年生児童と中学校教諭との関わりができ、児童の進学への不安を軽減することができた。 ○幼保小連絡会を通して、情報交換や１年生の授業参観を行うなど、交流を図れた。 ●コロナ禍もあり教職員同士の交流はなかなか進まなかった。今後、機会をもっていきたい。

（様式１・小学校用②）

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○教育課程を確実に実施した。 ○感染症対策を講じながら、形態を工夫して各種の学校行事を実施してきた。 ●今後も行事や日課等の見直しを通して、適切な授業時数を確保し教育目標の具現化に努める。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○国語科の校内課題研修を中心とした校内の取り組みが、児童の深い学びにつながった。 ○クロムブックや大型テレビの更なる授業内活用が授業改善につながり、学習理解を深められた。 ●授業改善が児童の学力向上につながるよう、基礎基本が確実に定着するよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図る。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業での授業研究・研究協議を行ったことで、教職員全体の道徳科指導への理解が深まった。 ●授業計画や評価の見直し、家庭への啓発を図り、更に充実した道徳教育が行えるよう努める。
	④外国語・外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	A	○授業者とＡＬＴとが連携を図り、充実した授業を行えた。 ○高学年では教科担任が授業者となり、専門性を生かした質の高い授業を行えた。 ●授業計画や評価の見直しを行い、より確実な指導力を身につけていく。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	B	○集会活動が難しい状況ではあったが、実施方法を工夫しながら１年生を送る会や児童集会などを行うことができた。 ○委員会活動では、各委員会が自ら課題を見つけ、より良い学校にするための活動に主体的に取り組むことができた。 ●児童の自主性を育むための指導の充実をより一層図っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○ＩＣＴ機器の活用が進み、学年・学級ごとに調べ学習や発表など、様々な場面で新たな利活用を行えた。 ●地域人材の活用をコロナ以前に戻せるよう、年間指導計画の見直しや、地域人材の掘り起こしを行う。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導主任を中心に、全教職員が共通理解を図り、チームでの対応・情報共有及び積極的な生徒指導を充実させることができた。 ○いじめ重大事案に認められるものはなかった。 ●小中連携、関係機関との連携を進めながら継続的な指導を展開する。 ●長期欠席・不登校児童の減少に向けて組織的に対応にあたり、必要に応じて関係機関との連携を図る。

	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○キャリアパスポートを活用し、家庭と連携しながら児童にふり返りをさせ、１年間の成長を確認できた。 ●各学年の実態に応じた活動計画になるよう、改善を図っていく。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○特別支援学級と通級活用児童には、個別の教育支援計画を作成し、適切に指導を行えた。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学相談や支援を計画的に行うことができた。 ●各学級に在籍する配慮を要する児童に対して、今後も指導体制の充実を図っていく。
	⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○学校司書や中央図書館と連携を密にし、図書室の整備に努めることができた。 ○朝読書や、ボランティア・担任による読み聞かせ等を通して、読書に親しむ機会を設けられた。 ●家庭での読書習慣をもたせるなど、進んで読書をする姿勢を今後も育んでいく。
	⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○クロムブックや大型テレビを活用した授業改善に努め、学習理解を深められた。 ○校内研修としてスクールタクトの活用の仕方についての研修を実施し、活用方法を学んだことで、スクールタクトの活用が進んだ。 ○児童間の活用も進み、調べ学習のみならず、スクールタクトやスライド機能を使っての発表や、話合いの中でのジャムボードの活用など、できることが広がってきている。 ●情報モラルやネットリテラシーといった、児童の使い方に対しての指導を進めていく。
	⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○夏季休業中の研修として、川村女子学園　内海崎貴子先生をお招きして、ジェンダーギャップに関する講演会を実施し、理解を深めた。 ○人権研修会や出張報告を通じて、人権を尊重した教育の推進をした。 ●定期的な校内研修の充実を進めていく。

（様式１・小学校用③）

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力向上	・研究発表に向けた計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動 ・地域や保護者、諸機関との連携	B	○国語科の授業実践や「国語川小スタイル」による授業、パワーアップタイムや家庭学習の充実といった取組を通して、草加市学力・学習状況調査では、国語は市平均に近い結果が得られた。 ●算数や理科は市平均を下回った。国語科の取組を継続させるとともに、取組の教科を広げていく。
	②ＩＣＴの活用	・活用に向けた計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動	A	○授業内活用が進み、児童も授業・学習の中でＩＣＴ機器を適切に使いこなせるようになりつつある。 ●学校行事の中で更なる活用場面を探っていく。特に、対面であることの良さ、オンラインであることの良さを組み合わせ、適切な活用の仕方について探る。
	③保護者への 理解・協力への取組	・保護者との連携 ・懇談会・個人面談等での意見 ・保護者アンケートの結果	A	○保護者アンケートの学校に関する項目では、学校への肯定的評価が93.4%であった。 ●今後も、理解を得られるような教育活動を行い、それらを発信していく。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。学校行事や会議の精選など、校務改善を図り、教職員の在校時間も削減できている。

○感染症拡大防止の対策を講じながら、保護者や地域の方にご理解とご協力をいただき、学校行事を進めてきた。また、各種たよりやホームページ等を通して、情報の発信に努めた。

○校内課題研修「学ぶ喜びを味わわせる国語科授業の創造　～読解力を高める説明的な指導法～」を研修主題として実践を重ねてきたことで、相手意識・目的意識をもった授業改善、系統的な指導法を取り入れた授業展開の工夫を進めることができた。

○授業内・外でＩＣＴ機器（クロムブック、大型テレビ等）の更なる活用が進んだ。教職員は各教科でＩＣＴを生かした授業づくりのため、新たな活用方法の習得、活用事例の共有に取り組んだ。児童も調べ学習、スクールタクトやスライド機能を使った発表や、話合いの中でのジャムボードの活用など、できることが更に広がってきた。

○生徒指導委員会を「生徒指導・特別支援・教育相談委員会」として、様々な課題を要する児童の情報を共有できる場とした。課題を要する児童の対応を多面的に捉えることができるようになったり、組織的に対応にあたることができるようになったりと、より適切な支援ができるようになった。

6　次年度の改善策

●新型コロナウイルス対策が新しいフェーズに移ることで、コロナ以前の学校行事や教育活動等に戻せるものが出てくることが予想される。コロナ禍で進んだ業務の精選との兼ね合いを図りながら、適切な教育計画の作成、確実な教育活動の実施を、全教職員一丸となって取り組んでいく。また、保護者や地域との連携方法についても模索していく。

●引き続き、国語科の校内研修に取り組んでいく。児童に基礎基本が確実に定着し、学力向上につながるよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図っていく。

●長欠児童や不登校児童を減少させるため、引き続き組織的に対応にあたるとともに、必要に応じて関係機関との連携を図る。